

京都大学 霊長類学・ワイルドライフサイエンス リーディング大学院 「アシュラ国際セミナー」

京都大学霊長類研究所 共同利用研究会

日本学術振興会基盤研究(S)「海のこころ、森のこころ。—鯨類と霊長類の知性に関する比較認知科学—」

共催

「第9回犬山国際比較社会認知シンポジウム (The 9th Inuyama International Comparative Social Cognition Symposium)」

日時：2014年1月11日～12日

場所：京都大学霊長類研究所大会議室

後援：京都大学こころの先端研究ユニット

日本学術会議・心の先端研究と心理学専門教育分科会

心の先端研究のための連携拠点 (W I S H)

日本学術会議・実験社会科学分科会



プログラム

2014/1/11

SESSION I

13:00-13:35 Takaaki Kaneko (Kyoto University)

Spatial attention of a laterally-eyed bird with two foveas in a single eye

13:35-14:10 Chika Nagaoka (Otemon Gakuin University)

Embodied Synchrony in Social Interaction

14:10-14:45 Chloe Gonseth (Grenoble University)*

Multimodality of linguistic communication: Gesture/speech interaction in pointing tasks

14:45-15:20 PRI Tour

SESSION II

15:55 Atsushi Nakazawa (Kyoto University)

Computational Behavioral Science - the state of the art of computational behavior understanding

15:55-16:30 Christopher Krupenye (Duke University)*

Bonobos exhibit generosity in food but not object sharing

16:30-17:05 Mai Sakai (Tokai University)

Social touch and synchronous behavior in dolphins

17:05-17:40 Toru Betsuyaku (Kyoto University)

A search for episodic-like memories in two species of rodents: hamsters and degus

17:40-18:15 Yuzuru Ikeda (University of the Ryukyus)

Primate in ocean: social recognition of squid

2014/1/12

SESSION III

9:00-9:35 Hiroaki Ishida (Italian Institute of Technology, University of Parma)

Social space and touch closely tie into the parieto-insular regions of the macaque monkey

9:35-10:10 Kazuyuki Samejima (Tamagawa University)

Neural mechanisms of value-based decision-making for object and action

10:10-10:45 Gizelle Anzures (Birkbeck, University of London)*

Development of an own-race face recognition advantage

10:45-11:20 Yasuo Nagasaka (RIKEN Brain Science Institute)

The latent social behaviour in Japanese macaques

11:20-11:55 Tomoko Imura (Niigata University of International and Information Studies)

Object recognition under the slit viewing by chimpanzees and human infants

SESSION IV

13:00-13:35 Masahiro Imafuku (Kyoto University)

Development of social cognition in infancy: Individual differences of gaze behavior to social stimuli

13:35-14:10 Regina Paxton Gazes (Zoo Atlanta)*

Reasoning to avoid conflict

14:10-14:45 Kaoru Sekiyama (Kumamoto University)

Aging and visuo-motor control: From a viewpoint of life-span brain development

14:45-15:00 General Discussion & Concluding Remarks

(*は PWS 経費により招へい)

2014年1月11日～12日の2日間、京都大学霊長類研究所において「第9回犬山比較社会認知シンポジウム(iCS²-9)」を開催した。今回は、PWS経費により4名の若手研究者を海外からお招きし、第5回以来の国際シンポジウムとして開催しました。このシンポジウムはその名の通り、主として社会的認知に関連する比較研究を進めている研究者を糾合し、この領域の現状と展望を広く共有しようという目的で2005年から京都大学霊長類研究所共同利用研究会として続けてきました。現在では、社会的認知、比較認知、こだわることなく、動物行動学、発達科学から、ロボット学、工学、哲学にいたる非常に幅広い領域から研究者を招いてクロスオーバーな議論ができる場となるよう心がけて運営しています。

今回は、海外からの4名に加えて国内からも12名の気鋭の研究者をお招きしました。トピックも視知覚から行動の同調まで、研究対象はデグーからイカまで、そして年齢は早産児から高齢者まで、非常にバラエティに富んだものでした。英語での発表が初めての方もいらっしゃる、そういう意味ではこのシンポジウムが科学的なディスカッションの鍛錬の場としても成長してきているなと感じました。

参加者は二日間で計 50 名。京都大学こころの先端研究ユニット、日本学術会議・心の先端研究と心理学専門教育分科会、心の先端研究のための連携拠点（W I S H）、そして日本学術会議・実験社会科学分科会の後援を得て開催されたことを記しておきます。



Chloe Gonseth (Univ. Grenoble)



Regina Paxton (Zoo Atlanta)



Gizelle Anzures (Birkbeck)



Christopher Krupenye (Duke Univ.)



京都大学霊長類研究所チンパンジー研究施設見学ツアー

シンポジウム終了後の1月13日より15日まで、PWSで招へいた4名と京大学部学生1名の計6名で宮崎県の京都大学野生動物研究センターの幸島観察ステーションおよび都井岬を訪問しました。14日に訪問した幸島では職員の鈴木崇文、高橋明子氏らのガイドにより、ニホンザルの観察を行いました。海岸にやってきたサルたちの行動を間近で観察するとともに、潮溜まりを利用した小麦洗い行動なども詳細に観察することができました。4名のうち3名が野生動物を間近で見たことがないということもあり、彼らも非常に興奮した様子で飽きることなくニホンザルの行動を観察していました。15日には、幸島から約20km弱のところにある都井岬に行き、半野生馬の観察を行いました。こちらもとても素晴らしい場所で、ここまで間近で馬を見ることができると素直に感動しました。これらの地が、PWSの実習や研究の場として大いに活用され、新しい人材を内外から惹きつける場所となるよう、努力していければと思いました。

(文責：友永雅己)



幸島にて



小麦洗い行動を観察する Regina さん



都井岬のウマ



都井岬ビジターセンターにて